

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77.0	6.3	70.0	22.2	62.0	6.8	45.0
全国	24.8	77.0	6.5	72.0	23.3	65.0	7.2	48.0

(2) 本校の学力調査結果の分析

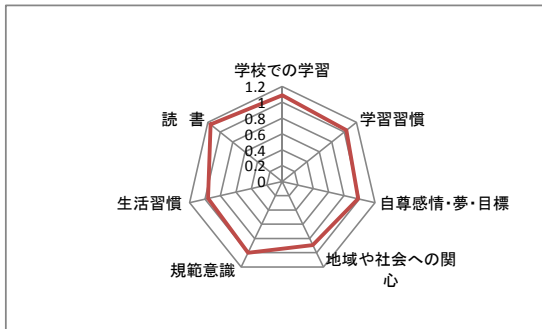
国語A	全体的な傾向や特徴など	どの項目も正答率が高く、全国平均正答率を上回っている。しかし、古典に関する関心や知識がやや低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	2一 スピーチを効果的に行う問題。	
	努力が必要な問題	9五 話し合いの記録として適切なものを選択する問題。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全ての項目が全国平均を上回っているが、特に音声言語に関する内容が理解できていたと思われる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	2一 スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する問題。	
	努力が必要な問題	1三 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	2学年で学習した内容(図形の性質の証明等)についての正答率が高く、1年生で学習した内容(方程式、空間図形等)の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	4(1) 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ問題。	
	努力が必要な問題	3(3) $x+y=2$ の解の意味について選ぶ問題。 5(2) 1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ問題。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	前年度と比べ、証明の問題には一定の成果がみられるが、数学的な判断力や表現力を問う問題に課題がみられた。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	4(3) 点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ問題。	
	努力が必要な問題	2(3) 六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較して、「学校での学習」「学習習慣」「読書」の項目で全国平均を上回った。また、「地域や社会への関心」「生活習慣」の項目では全国平均を下回った。 ・早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣に関する指導を行うとともに、地域の行事や祭りに関心を持ち、積極的に参加する取り組みを継続していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の「めあて」「まごめ」について、生徒が授業を先通しすることができる「めあて」を提示したり、「時間の字音の振り返りを伴った「学習のまとめ」を行う。
 ・「言葉の力」を育むために、毎時間、生徒が学習のまとめを自分の言葉で書いたり、発表したりできるように、指導を行う

② 家庭生活習慣等に関する取組

・熊中ノートなどを活用し、家庭学習の時間を確保するとともに、質を充実させていく。
 ・昨年度から引き続き、「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組への協力を通信等で保護者にもお願いし、生活習慣の定着を図る。